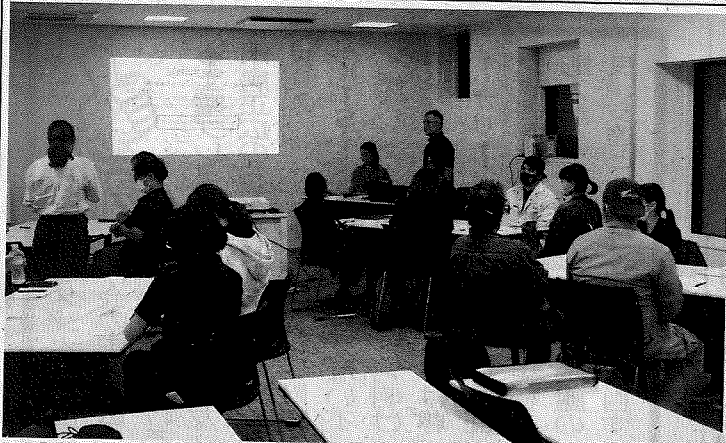


# 奄美版24時間いのちの電話を

## サービス障がい者が要望 意見交換

ピア交流会

2024年度から3年間の第7期障害福祉計画に、障がい者自身の意見を反映させることを目的の一つとした「第2回Pはーとねつと」ピア交流会(奄美地区地域自立支援協議会、ピア部会主催)が25日、奄美市名瀬のアマ



「議員もこの場に参加してほしい」といった意見も出されたピア交流会(25日、アマホームPLAZA)

ホームPLAZA(市民交流センター)であった。7月に行われた交流会で取りまとめられた意見を基に、障がい者が普段の生活での困り事や「あつたらいいな」と思っサービスなどで意見交換した。精神障がいのある人など11人が参加した。「全国的に障がいを抱える人の自殺者が増えている。身近に相談できる人がほしい」のちの電話はつながりにくい。24時間体制の奄美版いのちの電話がつくれないか「など、切実な声が聞かれた。

ひとりの喜びや、一般企業などへの就職を目指している人からは、お金の管理に対する不安の声が上がり、相談できる「福祉版フアイナンシャルプランナー」を求める意見があった。

2回目の参加となる20歳代の男性からは「僕たちの声は本当に政治に届くのか。この場に市議も参加してほしい」と訴える声もあった。

農福連携の就労支援B型事業所に勤める男性(25)は「6年間皆勤。草刈り作業や植え付け作業が楽しい」と話し、「ひとりの喜びなので、料理教室をやってもらえたら」と要望した。

同じ事業所に通う39歳の男性は「成人してから統合失調症になった。不安な時は施設長に電話して話を聞いてもらおうと落ち着く。相談相手のいない人のために24時間対応してくれる場所が必要。そうしたところがあるだけで命が助かる」と切実な思いを語った。

2回の交流会で出された意見は集約され11月初旬、福祉計画の策定作業を進める5市町村に提出され反映を求めらる。